

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4271402143		
法人名	(有)みずほ福祉サービス		
事業所名	グループホーム「みずほ野」		
所在地	雲仙市瑞穂町西郷己797番地		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に包まれ、施設の畑で四季を通じて無農薬野菜を栽培し、利用者の方と一緒に、種まきや収穫を行っている。また交流の場として保育園児を招待し、一緒に芋ほりを行ったり、交流ができない時は収穫した物を提供し繋がりを保った。四季折々の花の鑑賞や秋には紅葉を見る事が出来る環境で、コロナ禍で外出を制限しても季節を感じてもらうことが出来た。職員は利用者の方の自立支援に努め、なるべく出来る事が維持できるように心がけている。年間目標や月目標を掲げ、その月で何を心掛けるのかを決めている。利用者様を担当制にし、御家族にとっても身近な存在となり、なるべく何でも言ってもらえるような関係性が取れるように工夫を凝らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺は自然環境がよく、静かな場所で、四季を感じられ、毎年、近隣の桜木で花見を行い、桜の下で食事したりおやつを食べる機会を設けている。車いすの方には、天候や気温に留意しながら玄関先の花や木を見るなど外気浴し、日常的に散歩を行うなど取り組んでいる。近隣に民家が無く、地域住民との交流が少ないのが現状であるが、ホームに隣接している菜園にて無農薬野菜を栽培しており、コロナ禍が落ち着いた際に保育園児と一緒にサツマイモを収穫し交流を愉しんでいる。正月には雑煮や刺身や正月料理などを提供したり、クリスマスには職員とケーキを作ったり、サンマ会で炭火焼のサンマを食すなど、食の愉しみを設けている。管理者はコロナ禍が収束したら、以前のような地域や家族との交流を再開したい意向であり、今後の取り組みが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 南棟

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とは別にスローガンを掲げ、それに近づく様に精進している。また理念に沿い年間目標、月間目標を職員で決め、達成できるように毎日唱和している。	ホームの理念に基づき年間目標と月間目標を掲げ、職員が毎朝の申し送り時に唱和している。今年度は、年間目標「目配り、気配り、心配りのできる職員」、1月～2月の月間目標「寒さに負けない体力維持向上」とし、実践状況を毎月振り返り、理念の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で外部との交流は行っていなかったが、少し落ち着いてきたので早速保育園児と交流を図り、施設でのさつまいも掘りに参加してもらった。徐々に交流も広めていきたい。	近隣に民家が無く、地域住民との交流が少ないのが現状であるが、ホームに隣接している菜園にて無農薬野菜を栽培しており、コロナ禍が落ち着いた状況で保育園児と一緒にサツマイモを収穫し交流を愉しんだ。コロナ禍以前は地域の神社の御神輿が来訪したり、婦人会の方が踊りを披露する交流の機会があった。管理者はコロナ禍が収束したら、以前の交流を再開したい意向である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験など取り入れていたが、出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて年間行事や目標、また施設内で起こった事など報告し、市の職員や民生委員さん御家族からの助言にて向上するように努めている。	運営推進会議は、新型コロナ感染状況に応じて対面または書面会にて実施している。議事録にはホームの報告事項のほか、各委員の意見や質問内容とその対応について記載しており、分かりやすい。身体拘束、ヒヤリハット報告に関しても議題に取り上げ運営の透明化に努めている。運営推進会議議事録は玄関に設けた書棚に置き、家族等がいつでも閲覧できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問など生じた際はその都度相談するように努めている。今年度は実地指導もあり改善点の指摘があり、速やかに改善を行った。	運営推進会議に毎回市町村の担当者が参加し、意見や助言を得ている。保健所より感染対策への指導もあり、ホームの現状伝え、手袋・マスク・防護服などの援助物品を活用しながら感染対策を講じている。生活保護に関する行政担当職員がホームに来所することもあり、協力関係を築くよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとに身体拘束廃止委員会にて会合し、その結果をスタッフ会議にて報告している。	訪問調査日において身体拘束が必要な入居者はいない。身体拘束廃止委員会では身体拘束に該当する行為を検討し、ベッド柵や移乗センサーの使用方法を検討し、必要に応じて市に相談しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。12月にグループホーム連絡協議会主催の身体拘束に関するリモート研修に職員が参加し、近々伝達研修を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会には参加をするように努め、報告会も含め職員全体で勉強するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員により伝達し疑問が生じた際は関係機関に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関しては、不安や疑問がないように見学や面談に時間をかけ理解、納得されるまで行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なるべくご要望は受け止めるようにしている。連絡ノートにて全職員で共有し、問題が発生した場合はその都度話し合いをしている。	玄関にアンケート箱を置き、家族等が意見や要望等を記入できるようにしている。コロナ禍で面会を制限することもあるが、職員は電話や面会時間を短縮して家族とコミュニケーションを図っている。要望等は連絡ノートに残し、必要に応じて申し送り時に伝え、全職員間で共有している。尚、今回、職員の行動・所作について、家族より意見があった。	最近では食事料金の改定のほか、制度上の改定もあり、これを機に運営規定を見直し、最新版に更新することが望まれる。また、重要事項説明書で第三者（外部）評価の受審状況が分かるよう説明することが望まれる。今回の外部評価調査の家族アンケートの意見を踏まえ、全職員が気持ちを引き締めてケアに努めることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議にて意見や提案などあれば話し合うようにしている。職員の企画や提案は出来るだけ尊重するようにしている。	毎月の会議で職員より意見を出し合い、最近では、年末に行う餅つきをどうするかを検討し、職員によっては餅がのどに詰まるからしないほうが良いという意見が挙がったが、昔の人は餅が好きなので、訪問看護師がいるタイミングで実施し餅を食べてもらうという提案を採用した事例が窺えた。ホームは職員の資格取得を推奨し、研修やスクーリングに参加できるよう勤務調整を配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況は把握していると思われるが、職場環境、条件の整備には時間が掛かる事あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のどこが足りないのかを把握し、研修会や勉強会に参加するように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などにて交流を行っていたが、研修もリモートでの開催が多いため出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後は、不安が大きいと思われる為、特に寄り添いご希望や不安な事を聞き入れ、安心されるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の話をよく聞いて要望など出来る範囲で聞くように努め、担当者を決めなるべく近い存在になり、小さなことでも言っていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族のご意見をお聞きし、その人にとって何が今一番必要なのかを職員間で話し合い、あくまでも自立支援という事を念頭に見極めるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中でその人の思いを感じ取り、寄り添えるような関係性を築けるように努め、洗濯物干しやたたみ、下膳や茶碗洗い等も出来る方と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人やご家族の思いをくみ取り、双方に不満など感じられないように取り組み、面会や通信にて現状や行っている支援もお伝えしている。又いつでも電話で切る体制をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は現在短時間をお願いしている。面会禁止の時はリモートでの面会も行った。なるべく本人のなじみの物はできるだけ、持ち込みできるように対応している。	電話を使用して入居者の友人や知人との交流を継続している方もいる。コロナ禍以前は、墓参りなど本人が大切にしている馴染みの場所に行けるよう支援していた。管理者はコロナ禍収束後に馴染みの人や場との支援を再開する意向である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合う方々には近くの席についてもらったり、関係性が悪い方たちには離れて座ってもらったりして対応している。孤立されないように話しかけたり、趣味を生かした作業などで対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出合えたご縁を大切に、必要に応じて連絡を取り相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の本人の生活状況などを御家族やかかりつけ医に聞き取りを行い、どういった生活が希望に沿っているか入所後何をされたいのか要望を聞きながら本人がなるべくしたいことが出来るように検討している。	入居者毎に担当を決め、アセスメント・モニタリングを行っている。ホームだよりには入居者個々の状況をコメント欄に担当職員が記載し、家族へ伝えている。入居者の趣味や、夕方になったら雨戸を閉めることで落ち着く方など本人の思いや状態に合わせて対応している。発語が少ない方にも言葉かけして本人の表情を見て、時には家族にも相談しながら本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取りから始め、なじみの関係性を築く様に心掛け、普段の話からも把握できるように努めている。また以前居られた施設で何をされていたのかを参考にし対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の現状に合わせ、あくまでも職員は出来ない所の手伝いと位置づけ、職員同士で情報交換したり、申し送りで確実に伝え、出来るだけ本人の出来る事が維持できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様を担当制とし、なるべく本人やご家族に身近に感じてもらい、話しやすい関係性を築けるように心がけている。毎月の会議にて本人の状態、御家族の意向を取り入れ、その方にとって一番適した計画書になるように心がけて日誌に短期目標を載せ評価できる体制をとっている。	介護日誌の中に介護計画の短期目標を綴じ込み、日々の実践状況を評価欄に記載し、職員が介護計画を意識した支援に繋がるよう工夫している。入居者担当職員が介護計画案を作成し、計画案を基に会議で話し合い、家族へ郵送、あるいは電話にて内容を確認してもらい、入居者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや連絡帳にて現状や気づきを報告し、職員間で共有し変化があった時はその都度話し合い速やかに変更できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思いは日々変化する事を認識し、いろんな方向から物事を考え対応するよういしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関しては今年も、コロナの影響でできなかったが、施設内でできる事、また畑作業などで楽しんで頂けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前のかかりつけ医に入所後もご協力いただいている。また、受診や往診の結果はケアノートにて情報を共有している。	入居前のかかりつけ医を継続している方もおり、受診には職員が同行して支援している。ホームのかかりつけ医や皮膚科より往診がある。現在、訪問看護を入居者全員が利用している。必要な方には歯科医の訪問診療も行われている。入居者の大きな状態変化がない場合はホームだよりのコメント欄にて状況を知らせ、変化があればその都度報告している。薬剤師が職員会議に参加することもあり連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護にて日常の報告、利用者の状態を見てもらい、変化などあったら受診の判断も仰いでもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	先生や看護師、連携室との情報交換にて本人の状態を報告し、状態によっては速やかに入院できる体制、良くなった時の受け入れがスムーズにいくように連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りは行っていない。重度化した際は病院御家族と相談しながら出来る限り施設にて対応するようにしている。	入居時に、ホームでの看取り支援を実施しないことを家族や入居者に伝えている。可能な限りホームで支援するが、医療的ケアが必要となった場合は、ホームに常勤の看護師がいない為、病院へ移設となる。これまでも多くの入居者は病院へ入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防主催の研修には参加するような体制をとっているが最近では参加していない。そのため施設内で、以前研修を受けた職員が教えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練では夜間を想定した訓練を行っている。また以前市の職員からの助言で、施設内でどこが安全な場所かを再度確認し、今年も台風接近時夜間の職員体制を増やし対応した。	令和3年3月に、消防署立会いのもと夜間想定訓練、同年12月に夜間想定自主訓練、令和4年3月に夜間想定自主訓練を実施している。備蓄品をホーム敷地内物置にて保管し、事務職員が管理している。訓練の検証において、花畑への避難で足元の注意が必要との指摘や、特に夜間はよく見えず、車いすでも誘導に時間を要するなど具体的な声が挙がっている。	消火器の操作訓練を全職員が経験している（新入職員除く）が、訓練実施から長期間が経過している職員もあり、次回の消防署立会時には消火器の操作訓練もできるよう消防署に依頼することが望ましい。また、BCP（業務継続計画）の作成に着手し、準備を進めることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方や言葉遣いに関して、以前指摘を受けた事があるため、期間を見ながら見直しをしている。またトイレでもドアやカーテンを開けっぱなしにしないなど注意を払っている。	ホームだより等に掲載する入居者の写真は家族より同意を得ている。職員に対し守秘義務遵守の書面での誓約書は取っていないが、口頭では行っている。以前、家族より、職員の対応がフレンドリーすぎるとの指摘を受け、線引きするようにした。本人の羞恥心にも配慮し、トイレのドアやカーテンを占めて介助するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えには出来るだけ対応できるようにしている。無理な時は話をそらしたり他の事に気が向く様にしている。言葉かけも「・・・してください」ではなく、「・・・してもらっていいですか」と利用者が決めてもらうような話し方に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ職員主導にならないように、あくまでも主体は利用者であることを振り返りながら対応している。居室で過ごしたい方や合同での体操に参加されない方には個別に運動を取り入れている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の髪の整え、汚れたら着替えてもらうようにしている。外出時は一緒に服を選んでもらったり、季節の変わり時足りないものがあつたら、ご家族に持参してもらうようにご協力いただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で無農薬野菜を栽培し、利用者と一緒に収穫し調理担当が好みを聞き出し献立に役立っている。季節や行事などではそれに合った料理を提供し、食材の皮むきや下膳茶碗洗いも一緒にしてもらっている。	食材は食事1週間分を注文し仕入れている。隣接するホーム菜園で収穫した季節の無農薬野菜を食卓に並べたり、保育園や職員にも提供している。アレルギーがある入居者はいないが、食事制限が必要な入居者もあり、ホームで管理している。入居者の嚥下状態に応じて、キザミ食やミキサー食にて提供している。正月には雑煮や刺身や正月料理などを提供している。クリスマスにはケーキを作ったり、サンマ会で炭火焼のサンマを食すなど、食の楽しみを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事形態に合わせ提供し、体調不良や食欲不振の方も病院と相談しながら栄養補助食品で摂取カロリーが維持できるように取り組んでいる。夏場には脱水を起こされないようにチェック表を使用し飲料の種類もいくつか準備し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った口腔ケアを行っている。できない方の口腔ウェットの使用、義歯の方の夜間の洗浄剤の使用。数名訪問歯科にて治療、口腔ケアやマッサージをしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況を把握するように努め、時間毎のトイレ誘導や、夜間も時間ごとに誘導しコールで呼ばれる方の対応もとっている。	リハビリパンツを利用する入居者が多いが、オムツを利用する方もいる。排泄を自立している方や、以前、リハビリパンツから布パンツに戻った方もいた。排便に関しては排便記録を残している。ポータブルトイレを夜間のみ利用する方が2名いる。トイレ誘導を拒否する場合は、時間を置いたり、職員を変えるなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、便秘の方には担当医と相談し緩下剤を使用し定期的に排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回～3回は入浴できる体制をとり、希望者には随時対応している。拒否の方には職員が代わるがわる声かけたり、時間を置いて再度勧めたりなるべく入浴できるように心がけている。	入浴は、夏場は3回、冬場は2回を基本とし、時間帯は午前及び午後は夕方までに支援している。本人より希望があれば、入浴日以外でも入浴できる。また、本人が希望すれば、同性介助にも対応している。入浴を拒否する場合は、職員が声かけ方法を変えたり、対応する職員を変えるなど工夫している。冬至にはゆず湯を行うなど、季節感を感じてもらえるよう支援している。職員は入浴時を通じて、皮膚疾患など観察し、必要に応じて薬剤を塗布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせ対応し、早く休みたい方には早めに、午睡をされたい方にはその時間を取り、車椅子にて除圧が必要な方も随時休んでもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を飲まれているかを把握し、飲ませ忘れや誤薬がないように何度も職員間で話し合いを行った。改善が見られたら担当医と相談し減薬に努めている。また担当薬剤師さんにもスタッフ会議に時々参加してもらい、勉強会を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や個性を把握し、その人に出来る事を手伝ってもらい、必ずお礼を言うようにしている。嗜好品について本人が希望されるものに関しては御家族と相談しながら対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はコロナ禍の為控えてきたが、施設内では四季折々の木々や作物の植え付けや収穫で季節を感じてもらっている。	ホーム全体で外出する機会はできていないが、近隣に桜木があり、毎年3月～4月には花見を行い、桜の下で食事したりおやつを食べる機会を設けている。車いすの方も天候や気温に留意しながら玄関先の花や木を見るなど外気浴し、日常的な散歩を行うなど取り組んでいる。入居者が買いたい物を希望する場合は、個別で買い物に行くなど支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の欲しい物に関してはご家族に依頼している。御家族が遠方におられたり、依頼があれば運営推進会議時相談し対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があればいつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔の維持や換気を行っている。必要に応じ加湿器や除湿器、空気清浄器の設置を行っている。希望される利用者様には居室に飾る花と一緒に取りに行っている。	ホームでは、午前中に全体の清掃を行い、コロナ感染対策の為、手すりの消毒は朝と夕方に行っている。加湿器及び空気清浄機をホールに設置し、清掃のタイミングで換気を行っている。現在、正月飾り(凧など市販のものや、職員が作った門松)のほか入居者が工作した作品(うさぎ、書初め)を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間でも行き来できるようにし、気の合う方同士で会話が出来るようにしている。居室で過ごされる方には無理強いをしない、塗り絵をされる方にはいつでもできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んでもらったり、活動で作った物や職員手作りのカードや写真などを掲示し自分の居室であることを認識してもらっている。	居室のエアコンフィルターの清掃は、季節の変わり目に実施しており、今回は12月の大掃除の際に行った。居室への持ち込みに関し、特に制限は設けておらず、馴染みのものの持ち込みを家族へ促している。宗教上のものや位牌の持ち込みも制限は行っていない。ポータブルトイレは夜間のみ設置し、使用しない場合は居室外で保管している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あくまでも自立支援という事を職員間で共有し、出来る事がなるべく継続できるように支援し、歩行困難な方や車椅子自走の方の見守りや付き添いを行っている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 東棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とは別にスローガンを掲げ、それに近づく様に精進している。また理念に沿い年間目標、月間目標を職員で決め、達成できるように毎日唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で外部との交流は行っていなかったが、少し落ち着いてきたので早速保育園児と交流を図り、施設でのさつまいも掘りに参加してもらった。徐々に交流も広めていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験など取り入れていたが、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて年間行事や目標、また施設内で起こった事など報告し、市の職員や民生委員さん御家族からの助言にて向上するように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問など生じた際はその都度相談するように努めている。今年度は実地指導もあり改善点の指摘があり、速やかに改善を行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとに身体拘束廃止委員会にて会合し、その結果をスタッフ会議にて報告している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会には参加をするように努め、報告会も含め職員全体で勉強するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員により伝達し疑問が生じた際は関係機関に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関しては、不安や疑問がないように見学や面談に時間をかけ理解、納得されるまで行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なるべくご要望は受け止めるようにしている。連絡ノートにて全職員で共有し、問題が発生した場合はその都度話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議にて意見や提案などあれば話し合うようにしている。職員の企画や提案は出来るだけ尊重するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況は把握していると思われるが、職場環境、条件の整備には時間が掛かる事あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のどこが足りないのかを把握し、研修会や勉強会に参加するように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などにて交流を行っていたが、研修もリモートでの開催が多いため出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後は、不安が大きいと思われる為、特に寄り添いご希望や不安な事を聞き入れ、安心されるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の話をよく聞いて要望など出来る範囲で聞くように努め、担当者を決めなるべく近い存在になり、小さなことでも言っていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族のご意見をお聞きし、その人にとって何が今一番必要なのかを職員間で話し合い、あくまでも自立支援という事を念頭に見極めるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中でその人の思いを感じ取り、寄り添えるような関係性を築けるように努め、洗濯物干しやたたみ、下膳や茶碗洗い等も出来る方と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人やご家族の思いをくみ取り、双方に不満など感じられないように取り組み、面会や通信にて現状や行っている支援もお伝えしている。又いつでも電話で切る体制をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は現在短時間でお願いしている。面会禁止の時はリモートでの面会も行った。なるべく本人のなじみの物はできるだけ、持ち込みできるように対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合う方々には近くの席についてもらったり、関係性が悪い方たちには離れて座ってもらったりして対応している。孤立されないように話しかけたり、趣味を生かした作業などで対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出合えたご縁を大切に、必要に応じて連絡を取り相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の本人の生活状況などを御家族やかかりつけ医に聞き取りを行い、どういった生活が希望に沿っているか入所後何をされたいのか要望を聞きながら本人がなるべくしたいことが出来るように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取りから始め、なじみの関係性を築く様に心掛け、普段の話からも把握できるように努めている。また以前居られた施設で何をされていたのかを参考にし対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の現状に合わせ、あくまでも職員は出来ない所の手伝いと位置づけ、職員同士で情報交換したり、申し送りで確実に伝え、出来るだけ本人の出来る事が維持できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様を担当制とし、なるべく本人やご家族に身近に感じてもらい、話しやすい関係性を築けるように心がけている。毎月の会議にて本人の状態、御家族の意向を取り入れ、その方にとって一番適した計画書になるように心がけて日誌に短期目標を載せ評価できる体制をとっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや連絡帳にて現状や気づきを報告し、職員間で共有し変化があった時はその都度話し合い速やかに変更できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思いは日々変化する事を認識し、いろんな方向から物事を考え対応しようとしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関しては今年も、コロナの影響でできなかったが、施設内でできる事、また畑作業などで楽しんで頂けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前のかかりつけ医に入所後もご協力いただいている。また、受診や往診の結果はケアノートにて情報を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護にて日常の報告、利用者の状態を見てもらい、変化などあったら受診の判断も仰いでもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	先生や看護師、連携室との情報交換にて本人の状態を報告し、状態によっては速やかに入院できる体制、良くなった時の受け入れがスムーズにいくように連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りは行っていない。重度化した際は病院御家族と相談しながら出来る限り施設にて対応するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防主催の研修には参加するような体制をとっているが最近では参加していない。そのため施設内で、以前研修を受けた職員が教えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練では夜間を想定した訓練を行っている。また以前市の職員からの助言で、施設内でどこが安全な場所かを再度確認し、今年も台風接近時夜間の職員体制を増やし対応した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方や言葉遣いに関して、以前指摘を受けた事があるため、期間を見ながら見直しをしている。またトイレでもドアやカーテンを開けっぱなしにしないなど注意を払っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えには出来るだけ対応できるようにしている。無理な時は話をそらしたり他の事に気が向く様にしている。言葉かけも「・・・してください」ではなく、「・・・してもらっていいですか」と利用者が決めてもらうような話し方に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ職員主導にならないように、あくまでも主体は利用者であることを振り返りながら対応している。居室で過ごしたい方や合同での体操に参加されない方には個別に運動を取り入れている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の髪の手入れ、汚れたら着替えてもらうようにしている。外出時は一緒に服を選んでもらったり、季節の変わり目時足りないものがあつたら、ご家族に持参してもらうようにご協力いただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で無農薬野菜を栽培し、利用者と一緒に収穫し調理担当が好みを聞き出し献立に役立っている。季節や行事などではそれに合った料理を提供し、食材の手入れや下膳茶碗洗いも一緒にしてもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事形態に合わせ提供し、体調不良や食欲不振の方も病院と相談しながら栄養補助食品で摂取カロリーが維持できるように取り組んでいる。夏場には脱水を起こされないようにチェック表を使用し飲料の種類もいくつか準備し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った口腔ケアを行っている。できない方の口腔ウェットの使用、義歯の方の夜間の洗浄剤の使用。数名訪問歯科にて治療、口腔ケアやマッサージをしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況を把握するように努め、時間毎のトイレ誘導や、夜間も時間ごとに誘導しコールで呼ばれる方の対応もとっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、便秘の方には担当医と相談し緩下剤を使用し定期的に排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回～3回は入浴できる体制をとり、希望者には随時対応している。拒否の方には職員が代わるがわる声かけたり、時間を置いて再度勧めたりなるべく入浴できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせ対応し、早く休みたい方には早めに、午睡をされたい方にはその時間を取り、車椅子にて除圧が必要な方も随時休んでもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を飲まれているかを把握し、飲ませ忘れや誤薬がないように何度も職員間で話し合いを行った。改善が見られたら担当医と相談し減薬に努めている。また担当薬剤師さんにもスタッフ会議に時々参加してもらい、勉強会を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や個性を把握し、その人に出来る事を手伝ってもらい、必ずお礼を言うようにしている。嗜好品について本人が希望されるものに関しては御家族と相談しながら対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はコロナ禍の為控えてきたが、施設内では四季折々の木々や作物の植え付けや収穫で季節を感じてもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の欲しい物に関してはご家族に依頼している。御家族が遠方におられたり、依頼があれば運営推進会議時相談し対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があればいつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔の維持や換気を行っている。必要に応じ加湿器や除湿器、空気清浄器の設置を行っている。希望される利用者様には居室に飾る花を一緒に取りに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間でも行き来できるようにし、気の合う方同士で会話ができるようにしている。居室で過ごされる方には無理強いをしない、塗り絵をされる方にはいつでもできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んでもらったり、活動で作った物や職員手作りのカードや写真などを掲示し自分の居室であることを認識してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あくまでも自立支援という事を職員間で共有し、出来る事がなるべく継続できるように支援し、歩行困難な方や車椅子自走の方の見守りや付き添いを行っている。		